

# 第2期 中央地区地域づくり計画 (案)

計画期間：令和8年度～令和12年度  
(令和8年3月策定)



第2期 中央地区地域づくり計画策定委員会

## 目 次

1. 計画の趣旨	1
2. 長井市第6次総合計画及び長井市コミュニティ協議会の 目標及び理念を受けて	1
3. 第1期計画の振り返りと第2期計画の策定に向けて…	1～2
4. 中央地区の現状と課題	2～4
5. 第2期中央地区地域づくり計画	5～10
付録 (1)第2期中央地区地域づくり計画策定作業の経過	11
(2)第2期中央地区地域づくり計画中間報告会アンケート結果…	11～12
(3)第2期中央地区地域づくり計画策定委員名簿等	12

## 1. 計画の趣旨

長井市中央地区では、地域づくり計画を平成 31 年 3 月に策定し、令和元年からの 3 年間の第 1 期期間として、コミュニティセンター（以下、「コミセン」という。）を中心に取り組みを開始しました。しかし、コロナ禍により一時は事業がなかなか推進できない状況に見舞われました。その後徐々に活動を再開して、令和 6 年 3 月には第 1 期計画をポストコロナに合わせて再編し延長する形で、一定の事業成果をあげることができました。

地域づくり計画は、住民の立場から自分たちの将来はどうあるべきかを考え、自分たちの地域は自分たちで守り、創っていく姿勢を示したもので、明るく、楽しく、住みよい環境を次世代にバトンタッチしていく中央地区住民の意思と責務を現したものといたします。

第 2 期中央地区地域づくり計画は、5 年後の中央地区の姿を目標に、それぞれの課題について、「みんながずっと住みたい中央地区を目指して」、コミセンが主体的に取り組み、実現可能な計画となることを第一に策定しました。

## 2. 長井市第六次総合計画及び長井市コミュニティ協議会の目標及び理念を受けて

長井市では令和 6 年に第六次総合計画を作成し、そこでの将来像として「みんながしあわせに暮らせる長井～ずっと笑顔あふれるまち～」を基本に、地域づくりの考え方である「各コミュニティセンターを中心とした地域づくりによって誰もが住み慣れた地域でいつまでも住み続けられる、持続可能な地域を目指す」ことを目指して本計画を策定しました。

また、長井市コミュニティ協議会の基本理念「誰もが幸せに、安心していつまでも愛着のある地域で暮らせるまちづくりの実現」と基本方針「小さな拠点機能と地域づくりの充実」を目指します。

## 3. 第 1 期計画の振り返りと第 2 期計画の策定に向けて

### (1) 第 1 期中央地区地域づくり計画の成果

第 1 期計画では、4 分野での取り組みを行いました。ここに主なものを示します。

まず地域振興分野では、商店街や古い細道を歩きながら、まちの再発見をする「まちあるき」や、まちなかをあやめでいっぱいにする「あやめ花いっぱいプロジェクト」に取り組みました。「あやめ花いっぱいプロジェクト」では、花のオーナー 170 名の皆さんに、まちなかをあやめで飾っていただいております。

次に安全安心分野について、毎週木曜日に長井小学校児童の下校見守りを行い、関係する団体（交通安全協会、交通安全母の会等）で情報交換会を行い子どもの安全面の課題を共有しています。また、ふりりまつりの際の「防災・減災用品の展示会」では、使い方などについて個々に説明し好評を得ております。

続いて健康福祉分野では、毎週火曜日の「いきいき百歳体操」には毎回 20 名前後の方々が参加されます。また、伝統食を守り継承することを目的にした冊子「次世代に残したい長井のおかず」を発刊し、市民の皆様に購入いただきました。さらに、「コミセン内におしゃべりできるスペースを」という声に応え、ロビーに無料サーバーを設置して、みんなが利用できる憩いの場「ふらっと」を作りました。学生の勉強の場として、また、ちょっとした打ち合わせの場としてもご活用いただいております。

さらに、教育文化分野では、生涯学習の振興を目的に多様な世代を対象にした各種講座を開設、イベント事業では中高生ボランティアが協力をする「中高生プロジェクト」が定着しつつあります。また伝統文

化の継承では、「長井さしこ教室」が長井さしこの歴史を守りながら、その継承に取り組み、最近では作品を販売する活動も行っています。

このほかにも、「交流センターふりりまつり」「夏まつり交流会」「冬まつり交流会」など、世代間交流のできる場を提供し、楽しく、住みよい地域づくりに取り組んできました。

このように第1期計画を通じて着実な成果をあげることができた一方で、計画が総花的であったために、コミセン自体に焦点をあてた事業の管理や推進が難しい点も指摘されました。

## (2) 第2期計画の策定に向けて

第2期計画を策定するにあたり、準備段階として第1期計画と6年間の活動を振り返りました。先述のとおり、第1期計画はテーマと分野が多岐にわたり、未着手の事業が多くあったという反省に立ち、地域の現状を踏まえ、実際にコミセンが取り組める活動にしぼった計画になるように配慮しました。

そのため第1期計画は100名近い策定委員数でしたが、今回は少人数で構成して、分野ごとの議論を深めることにしました。また、できるだけ地域が抱える課題を把握するために、町内会長や自治公民館長をはじめ、各種団体との意見交換などを分野ごとに行い、全体の策定委員会で共有し、整合性を図りました。さらに中間報告会や市報掲載による意見募集により、計画に住民の声を広く反映できるよう努めました。第2期計画の策定プロセスについては、後掲資料(P11,12)を参照ください。

## 4. 中央地区の現状と課題

### (1) 中央地区の現状

第2期計画の策定にあたり、最初に中央地区の人口減少と高齢化の現状について確認します。

図表①より、中央地区の人口総数は、2040年には2020年から28.3%減少して、8,976名と予測されています。また、年齢別の人口割合の推移では、0～14歳では30.7%、15～64歳までは30.8%、65歳以上は21.0%の減少となり、若い世代での大きな人口減少が予測されています。

図表②は、高齢者の人口推移を示していますが、2005～2010年にかけて75歳以上の後期高齢者と、65～74歳の後期高齢者を支える側にたつ高齢者とが、逆転していることがわかります。このような現状をふまえて、自分たちの地域は自分たちで守る、地域でできることは何か、コミセンでできることは何かを考えながら、様々な面で取り組んでいくことが求められています。

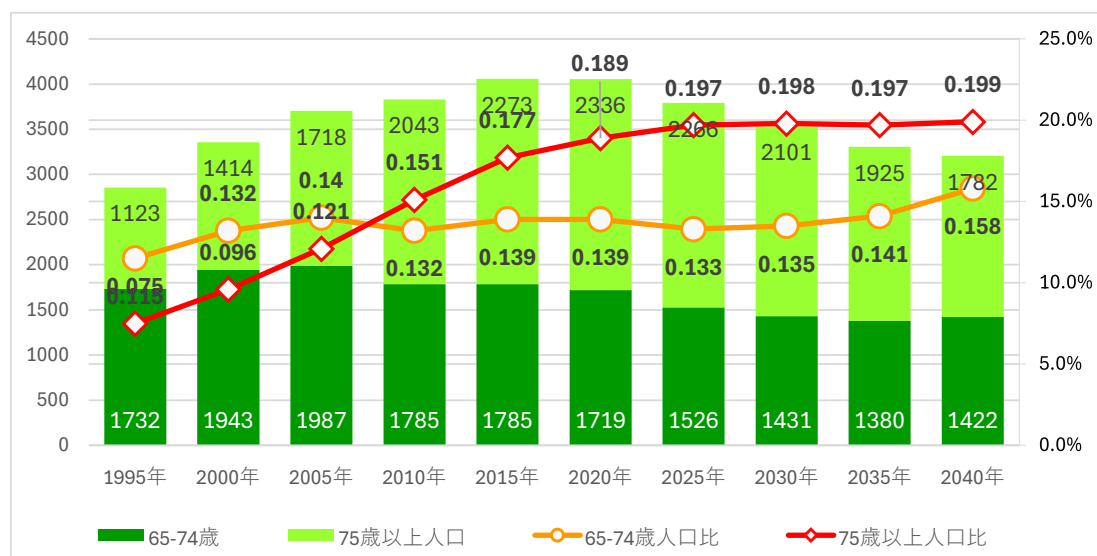
図表① 中央地区の過去20年人口推移と今後の20年の予測値

	国勢調査				推計値※				
中央	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総人口(人)	14,706	14,157	13,532	12,881	12,522	11,490	10,628	9,784	8,976
			-14.9%				-28.3%		
0～14歳(人)	2,308	2,129	1,883	1,628	1,433	1,316	1,211	1,110	993
			-37.9%				-30.7%		
15～64歳(人)	9,041	8,323	7,735	7,161	6,887	6,381	5,885	5,369	4,779
			-23.8%				-30.8%		
65歳～(人)	3,357	3,705	3,903	4,058	4,055	3,792	3,532	3,305	3,205
			+20.8%				-21.0%		
高齢者率	22.83%	26.17%	28.84%	31.50%	32.38%	33.01%	33.23%	33.78%	35.70%
(再掲)65～74歳	1,943	1,987	1,785	1,785	1,719	1,526	1,431	1,380	1,422
						-16.8%減			
(再掲)75歳～	1,414	1,718	2,043	2,273	2,336	2,266	2,101	1,925	1,782
(再掲)85歳～	331	419	548	690	822	844	776	746	679
一般世帯数	4,885	4,856	4,813	4,725	4,985	4,785	4,567	4,274	3,968

(参考)2020年の高齢者率 山形県平均:33.82%/全国平均:28.68%

推計値はIHOE「人と組織と地球のための国際研修所」が公開している集計ノートを活用し算出

図表② 中央地区の高齢者人口の20年の予測値推移



## (2) 中央地区の課題

次に中央地区における暮らしの課題について、事業実施主体である中央コミセン運営協議会の各専門部会や、事業参加者、施設利用者、協力団体の皆さんからの意見や評価、さらには第2期計画案の中間報告会で出された住民の意見や要望などを踏まえて、策定委員会で洗い出しました。その内容を以下のように課題①～⑦としてまとめました。

### 課題① コミュニケーションの希薄化

- ・町内、近所同士のコミュニケーションや生活様式の違いなどから家族間のコミュニケーションも希薄になっている。
- ・家庭内で伝承される様々な知識・技術の継承や地域で伝承されるべきもの（地区運営の仕組み、地域の歴史、故郷の味、伝統芸能、農業技術など）が後世に残せるか危うい状況にある。
- ・世代間交流、団体間交流、外国からの労働者や、県外から移住された方との交流をどう進めるか。

### 課題② 人口減少による地区・団体等組織運営の限界

- ・各種組織（地区自治公民館等）の役員の成り手不足、会員不足が深刻化し、活動の継続が困難。
- ・若い人材育成が喫緊の課題。

### 課題③ 少子化に伴う「地域概念」の変化への不安

- ・子どもを持つ親世代と地区との関わりが容易ではなくなってきた。また、まちづくりを意識する「地域愛」のようなものが持ちにくくなった。
- ・子どもや高齢者、全ての人々が集うことができる居場所づくりが急務といえる。
- ・小さい頃から地域に慣れ親しむ習慣を持つことが重要。

### 課題④ 個々の暮らしを取り巻く「不便さ」

- ・高齢者のみの世帯が増加する中、買い物や病院などの利用をカバーする移動支援サービスが不可欠。
- ・地域での移動支援、買い物支援、子ども支援など、みんなで支えあう仕組みづくりが必要。

#### 課題⑤ 空き家・耕作放棄地の増加

- ・空き家や継承者不在の農地など年々増加しており、農地に関しては、労働力が減少していく中で、今後については見通しが立たない声も聞かれる。
- ・空き家では所有者の放置、継承者不在状態など防犯上の危険も危惧されている。

#### 課題⑥ みんなが楽しめる、学べる、交流できるコミュニティの重要性

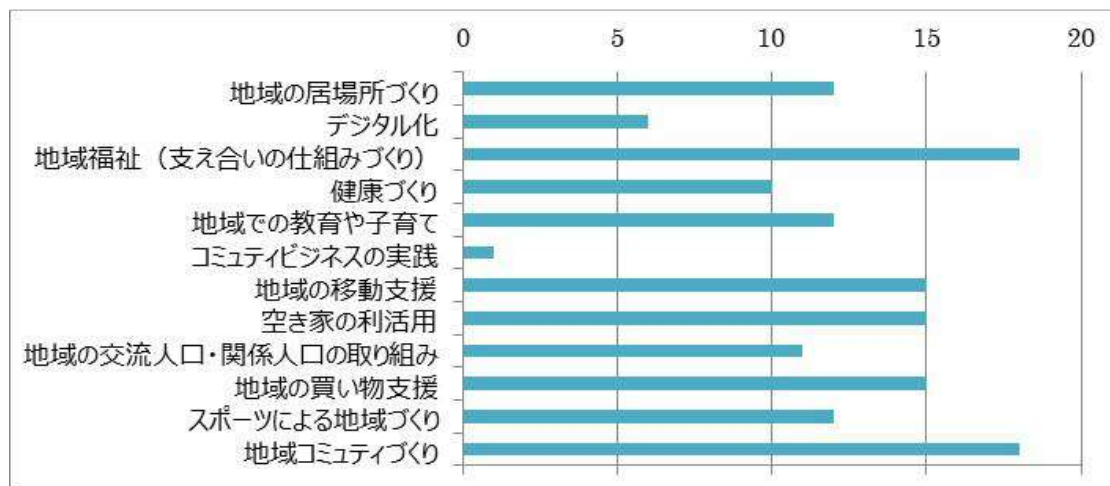
- ・少子高齢化、生活様式の多様化など、様々な要因で人と人との交流が少なくなっている現状から、コミセンの役割はますます重要になっている。
- ・子ども、高齢者、子育て世代など、多様な世代間の交流の場を設定し、「食や環境問題」、「エネルギー問題」、「デジタル技術」など、様々なテーマで「学ぶ機会の提供」に取り組む。

#### 課題⑦ 異常気象による災害及び対策の難しさ

- ・近年の異常気象や市街地への熊出没等の対策として、地区での避難訓練や防災対策の実施、そして地区や地域を超えた連携や情報交換を行う。

なお図表③は、第2期計画案の中間報告会（令和7年11月開催）で実施したアンケート調査結果です。

図表③ 地域で必要になると思われることや考慮すべき課題（複数回答）



出所：中央地区地域づくり計画中間報告会アンケート



第2期中央地区地域づくり計画策定委員会



## 5. 第2期中央地区地域づくり計画（令和8年度～令和12年度）

### （1）計画の特記事項

長井市の令和6年の「第六次総合計画」は、当然ながら中央地区とも密接に重なっており、市の総合計画と中央地区地域づくり計画は相互に補完しあう関係にあります。

その上で、第2期地域づくり計画において、3つの特筆すべきことを説明します。

1つ目は、各分野の活動に対して、KPI（重要業績評価指標）を設定して活動を推進することにしました。これは第2期計画で初めて取り入れました。KPIとは、活動の目的が達成できたかどうかを確認するための数値目標のことで、「ここを目指そう」「ここまでやったらOK」と、終わったあとだけではなく、中間地点でのチェックポイントの役割も果たし、活動の進捗状況を把握したり、情報の共有化に役立てていきたいと考えます。数値目標といっても、単に数の増減をみるのではなく、人口減少のなかでも豊かな暮らしができるよう、ひとりひとりの生活の質や満足度の視点を重視しました。

2つ目は、持続可能な地域づくりの視点です。中央地区にも人口減少と高齢社会が到来して、これまで長く地域を担ってきた町内会や各種団体の先細りが目立ってきました。そこで第2期計画では、コミセンが町内会や各種団体と継続的に話し合う場をつくり、地域の現状と課題を共有し、将来的に無理なく持続可能な地域運営に必要な手立てを、市とともに検討を始めます。

3つ目は、新たにデジタル活用を重点分野に取り上げました。急速なデジタル化が進み、民間や行政でも、サービスの多くがデジタルで提供されるようになりました。デジタル化は、パソコンやスマートフォン（スマホ）を使える人にとって暮らしの利便性が格段に高まりますが、使えない人にとっては重要な情報が入手できず不利益（デジタルデバインド）が生じます。第2期計画では、デジタル化が進んでも、誰一人取り残さない地域づくりの取り組みを開始します。

### （2）第2期計画のキャッチフレーズと目標

以上のような鍵となる要素を含み、だれもが分かりやすく、一緒に取り組みたいと感じる第2期計画のキャッチフレーズと目標を、次のように作成しました。

#### 第2期 中央地区地域づくり計画

キャッチフレーズ： とともに築こう ころ豊かな暮らしを

目 標： みんながずっと住みたい中央地区を目指して

### （3）4つの分野目標と11項目の重点施策

第2期計画では、目指すビジョンの具現化に向けて、第1期計画の実績を引き継ぎつつ、いまの中央地区の現状を踏まえ、4つの活動分野で取り組みを行います。

活動分野	テーマ
地域振興	楽しく交流し、誰もが活躍できる地域づくり
健康安心	健康でいきいきと安心して暮らせる地域づくり
教育文化	ふるさとを愛する心の育成と学習機会の充実
デジタル	デジタル技術を活用し暮らしやすい地域づくり

## ○地域振興分野：楽しく交流し、誰もが活躍できる地域づくり

### 重点施策① 地域交流の推進

誰もが安心して、楽しく交流できる場や機会を作るために、コミセンの事業を単なる「場貸し」で終わらせずに、多様なニーズにこたえ、誰もが満足できるような質の高い交流事業を企画します。様々な世代や移住者、外国人など誰にとっても居心地の良い居場所になるような交流を育みます。

また、地域の実情にあった持続可能な地域運営に向けて、町内会や地域の組織が抱える課題について情報共有する場を作り、機能の維持や他地区との協働を進めるための検討を行います。

### 重点施策② 住みよい暮らしづくり

住民がいきいきと活動し、不便なく生活できる中心市街地の環境の維持を目指します。そのために、商店街や地域の事業所と連携して、買い物や交通などの生活情報の発信や活用を推進します。また、住民が活動や交流に利用したいと思う公共施設のあり方やニーズを丁寧に集めます。これは、将来的な公共施設整備の議論の土台となります。



「あやめ花いっぱいプロジェクト  
花のオーナーさんに育てたあやめを店頭に飾っ  
ていただいています」



商店街の立地を活用した事業の推進  
「おとなの社会見学 商店街を歩こう♪」

## ○健康安心分野：健康でいきいきと安心して暮らせる地域づくり

### 重点施策③ 心と体の健康づくり

健康でいきいきと暮らせるための健康づくりを推進します。具体的には「いきいき百歳体操」や「いきいき健康教室」といった楽しく継続できるプログラムを充実させます。



#### 重点施策④ 生活支援体制づくり

住民の暮らしを見守り、困りごとに対応できる支えあいの仕組みづくりを整えます。買い物支援や移動支援といった活動の体制づくりが課題となります。

#### 重点施策⑤ 防犯意識の向上

地域の安全安心は、地域で守る体制を整えるために、子どもたちの下校見守りや青パトでの巡回、高齢者を対象にした特殊詐欺犯罪防止に向けた研修会を実施します。

#### 重点施策⑥ 防災意識の向上

長井は比較的災害が少なく、いざという時の対応力や日々の備えが不十分であることも指摘されています。そこで講演会や学習会を通して、「自助」、つまり自分の命は自分で守るための知識と行動を身につけて、地域防災力、減災力の向上を目指します。

#### 重点施策⑦ SDGs（エネルギーと食の安全）の推進

地産地消を推奨してフードマイレージの削減に向けて取り組みます。フードマイレージとは、食糧の輸送量と輸送距離を掛け合わせ、食料が生産地から食卓に届くまでの環境負荷を数値化した指標のことで、この削減は単に環境面だけではなく、地域経済面でも効果が見込まれます。



移動支援や防犯対策としての巡回活動  
「公用車を利用して、地域の生活支援や犯罪の抑止力等に使用します」



いきいき百歳体操  
「毎週火曜日にどなたでも、自由に参加できます」

### ○教育文化分野：ふるさとを愛する心の育成と学習機会の充実

#### 重点施策⑧ 地域を支える「未来の担い手」の育成

地域にとって最も重要な「未来の担い手」を育成するために、各種団体や地域の小・中学校、高校との連携を強化して、コミセンや地域のボランティア活動に、子どもたちが企画や運営側として参加してもらう機会を設けます。若い世代が地域活動に主体的にかかわることで、この地域への愛着と責任感が育まれることを期待しています。

#### 重点施策⑨ 生涯学習の推進

中央地区の住民が、様々な場所や形態で学習できる機会を提供します。そのため、従来のコミセンだけではなく、学校や地域の施設など「コミセンの外」を会場にしたり、対面型講座だけではなく、オンラインを活用した学習プログラムも充実させていきます。これにより、子育て中や外出が難しい方にとっても、学びたいときに学べる環境整備につながります。

#### 重点施策⑩ 地域文化の発信と伝承

長井に伝わる黒獅子舞などの伝統文化や、長井刺し子などの伝統工芸は私たちの誇りであり、守り伝えていくべき宝です。この特色ある伝統文化や伝統工芸を後世に残すために、保存活動や愛好者を拡大するためのワークショップや学習会を開催して、より多くの方にその魅力を届けたいと考えます。



史跡めぐり講座

「地区内に設置されている案内板を活用した学習会」を行います



畑の楽耕(がっこう)

「畑の協力者会をはじめ、中学生ボランティアが活動を支えます」

### ○デジタル分野：デジタル技術を活用し暮らしやすい地域づくり

#### 重点施策⑪ デジタルデバイドの解消

デジタル化が進み、SNS による情報入手が普及するなか、スマホの操作がわからないなど、デジタル技術を利用できる人とできない人との間に情報格差（デジタルデバイド）が生じています。この解消に向けて、必要な人に必要なスキルを提供し、デジタル活用を促す取り組みを行います。

またインターネット上には、社会を混乱させることを目的にしたウソの情報、いわゆるフェイクニュースもあふれており、特に災害時ではデマ情報が拡散することが懸念されています。そのため、正しい情報を地域内や、市役所・警察・消防・学校と共有できる情報サポーターの養成を検討します。



(4) 第2期中央地区地域づくり計画 一覧表(マトリックス)

○地域振興分野

テーマ：楽しく交流し、誰もが活躍できる地域づくり

重点施策	行動方針	主な事業内容	KPI(重要業績評価指標)
①地域交流の推進	誰もが安心して楽しく交流できる場や機会を作ります	多様なニーズに応え、誰もが満足できるようなコミセン事業を行う	参加者の満足度 具体的な取り組みの件数
	地域の実情に合った持続可能な組織運営の構築に取り組みます	自治会や地域組織の現状についての情報共有と、機能維持、協働の推進のための検討と具体化に取り組む	
②住みよい暮らしづくり	住民がいきいきと活動し、不便なく生活できる中心市街地の環境の維持を目指します	商店街や地域の事業所との連携による買い物、交通などの生活情報の発信や活用の推進	
		住民が活動や交流に使用したいと思う公共施設の在り方、ニーズを集める	

キーワード ①地域の融和、地区組織、隣組組織、担い手不足解消、共生、交流の場・居場所づくり、生きがいづくり、外国人、移住者  
②商店街利用促進、都市機能維持、花いっぱい運動

○健康安心分野

テーマ：健康でいきいきと安心して暮らせる地域づくり

重点施策	行動方針	主な事業内容	KPI(重要業績評価指標)
③心と体の健康づくり	健康でいきいき暮らせるための健康づくり事業の取り組みを推進します	百歳体操やいきいき健康教室等を開催	参加者の健康度
④生活支援体制づくり	住民の暮らしを見守り、支えあう仕組みづくりを整えます	買い物支援や移動支援等の活動支援体制づくりを進める	参加者の仲介回数
⑤防犯意識の向上	地域の安全安心は地域で守る体制を整えます	子どもたちの下校見守りや青色回転灯を装備した車両(青パト)での巡回等で犯罪の抑止力を強化していく	事件・事故の件数
		特殊詐欺犯罪防止に向けた研修会を実施する	
⑥防災意識の向上	地域防災・地域減災力の向上を目指します	講演会、学習会等を通して自助の推進を図る	参加者の理解度
⑦SDGs(エネルギーと食の安全)の推進	地産地消を推進し、 <u>フードマイレージ</u> 削減にむけて取り組みます	地場産品の積極的な購入とPRに努める	消費者の実践度

キーワード ③健康づくり  
④移動支援、買い物支援、高齢者支援  
⑤交通安全、青色パトロール、特殊詐欺  
⑥防犯普及啓発活動、自然環境  
⑦リユース、リサイクル、ゴミ拾い、環境問題、節電(小中学校)、レインボープランへの協力  
※フードマイレージとは、食糧の輸送量と輸送距離を掛け合わせ、食料が生産地から食卓に届くまでの環境負荷を数値化した指標。

## ○教育文化分野

テーマ：ふるさとを愛する心の育成と学習機会の充実

重点施策	行動方針	主な事業内容	KPI(重要業績評価指標)
⑧地域を支える「未来の担い手」の育成	各種団体や地域の学校と連携し、地域の教育力のさらなる向上を目指します	コミセンと小中高校との連携を図る 中高生の活躍の場づくり	中高生スタッフの参加者数と継続率
⑨生涯学習の推進	住民一人ひとりが様々な場所や形態で学習できる機会を提供します	多様な年代層を対象とした学習機会の提供	参加者数 (オンライン受講者も含む)
⑩地域文化の発信	地域に残る伝統文化の伝承のため、情報収集と発信を行います	伝統文化や伝統工芸等、愛好者の拡大	

キーワード ⑧学校との連携、部活に代わる受け皿体制、スクールコミュニティ、次世代を担う子どもの育成、子どものデジタルとの向き合い方  
⑨多様な学びの場の提供  
⑩伝統行事の伝承、まちの景観保全

## ○デジタル分野

テーマ：デジタル技術を活用し暮らしやすい地域づくり

重点施策	行動方針	主な事業内容	KPI(重要業績評価指標)
⑪デジタルデバイドの解消	デジタル技術を学ぶ機会を提供し、生活しやすい環境を整えます	シニア層へのサポート機会の提供 災害時の正確な情報発信を学ぶサポーターの養成	サポート体制の具現化の件数

キーワード ⑪デジタルデバインド解消  
※デジタルデバインドとは、インターネットやパソコンなどの情報通信技術を使える人と使えない人の間に生じる情報格差。





## 6. 付録

### (1) 第2期中央地区地域づくり計画策定作業の経過

月 日	会議・策定作業	主な検討内容
令和7年5月22日	<b>第1回策定委員会</b>	委嘱状交付、策定作業の計画、小部会の進め方について
6月中旬～7月上旬	分野別の小部会①	教育文化小部会（6/19）、地域振興小部会（6/24）、健康安心小部会（7/3）
7月18日	事務局会議	小部会報告と第2回策定委員会の協議内容について
7月24日	<b>第2回策定委員会</b>	小部会報告と策定作業（第1期計画の評価と重点施策）
8月29日	事務局会議	小部会での協議内容について
9月上旬～中旬	テーマ毎に小部会②	地域振興小部会（9/9）、教育文化小部会（9/11）、健康安心小部会（9/16）
9月29日	事務局会議	第3回策定委員会の協議内容と中間報告会について
10月9日	<b>第3回策定委員会</b>	小部会報告と策定作業（行動方針、主な事業内容、KPI）
10月20日	事務局会議	中間報告書（案）の取りまとめ
11月6日	中間報告会パネラー打合せ	パネルディスカッションの進め方について
11月16日	<b>中間報告会</b>	下の（2）参照
12月15日	事務局会議	中間報告会の振り返りと今後の進め方について
令和8年2月1日	第2期中央地区地域づくり計画（案）についての意見募集（市報掲載）	
2月2日～18日	第2期中央地区地域づくり計画（案）についての意見募集期間	
2月下旬	<b>第4回策定委員会</b>	第2期計画（案）の完成
3月下旬	<b>運営協議会上程・議決</b>	第2期計画の決定
4月以降	<b>計画書完成</b>	住民への周知。事業開始。

### (2) 第2期中央地区地域づくり計画中間報告会とアンケート結果

期日：令和7年11月16日（日）14時～16時

会場：長井市民文化会館 大会議室

内容：①第1期中央地区地域づくり計画の成果と

第2期計画の策定状況について 梅津ひろみ館長

②中央コミセンに関わっている方の活動事例の発表

・「長井さしこ教室」 高木 直さん

・「畑の楽耕中学生ボランティア」 鈴木皐史さん、渡辺桜介さん（長井南中学校）

③第2期計画（案）の紹介と パネルディスカッション

分野別発表・パネラー 小関幸一氏、鈴木洋子氏、竹田幸子氏、横山裕充氏（策定委員）

コーディネーター 青木孝弘氏（東北公益文科大学教授）

アドバイザー 新野弘明氏（長井市総務参事）

同 佐藤裕子氏（一般社団法人長井市コミュニティ協議会事務局長）



## 中間報告会でのアンケートから ～全体を通して印象に残ったことやもっと知りたいことは～

- ・計画の内容、目指す姿など、中間時点ではあるが知ることができて良かった。各活動分野ごと、あげた事業、何でも良いので実現できればいいと思った。
- ・各分野とも推進されているようですが、さらに多くの地区民が参加できるように協力、対応、対応、体制が必要ではないかと考えます。
- ・地域組織に限定していましたが、コミセンとして何ができるかを示して意見交換をしていく必要があると思います。意見交換の中央地区全地区にある共通点を解決したり、課題を探っていくとヒントが見えてくる気がします。
- ・フロアの意見をもっと聞くように。皆さん良い意見を出していたのに、何か準備しすぎていて自由さがなかった。
- ・生活支援は大事なことです、「何でも」「誰でも」できるとは限らないので、具体的にできることをまとめる必要があると思います。どのようなニーズがあるか把握することも大事だと思います。
- ・デジタル分野で、シニア層へのサポートの機会について、コミセン会場だけでなく、各地区単位に実践できないか。
- ・より良いまちづくりを目指して行ってほしいと思います。
- ・地区全体が参加するイベントの開催。かつての運動会からスポレク大会、「まちなかウォークラリー」として実施しているが、参加者が少ない。健康づくりからウォーキング大会のような、より多くの人が参加できるイベントにできないか。5キロ、10キロ、20キロのようなウォーキング大会。
- ・デジタルだけが生活を良くするツールとは限りませんが、使えないことで情報の格差が生じないような工夫をすることは大切だと思います。
- ・中学生の活躍の場として、中学生自らが考えた企画、運営の支援をする。



### (3) 第2期中央地区地域づくり計画策定委員

策定委員長	中井 俊彦	アドバイザー	青木 孝弘
策定副委員長	齋藤 正幸	アドバイザー	佐藤 裕子
遠藤 倫夫	神尾 知秀	小関 幸一	齋藤 雅登
鈴木 洋子	竹田 幸子	竹田 信一	土屋 敏朗
堀越 邦彦	横山 裕充	鈴木 雄一	鈴木裕美子
		蜂谷 拓郎	廣谷 行治

### (4) 第2期中央地区地域づくり計画策定にご協力いただいた方々

梅津 昌義	梅津 真	梅津 昌志	大泉 紀也	小山田智弘	金田 征司
菅野 昭浩	小関 孝夫	小関 幸一	小林 亮太	佐藤 和子	佐藤 清
須藤俊一郎	鈴木 宣博	鈴木 宏明	高橋 和巳	土屋 賢寿	長澤 春香
長沼真知子	早川 京子	山口 良子			

### (5) 事務局（中央コミュニティセンター）

梅津ひろみ	遠藤 和彦	菊地 久美	渡部 拓海	鈴木 俊一	松木ひとみ
-------	-------	-------	-------	-------	-------



## 第2期 中央地区地域づくり計画

第2期中央地区地域づくり計画策定委員会

993-0002 山形県長井市屋城町6-53

(中央コミュニティセンター内)